

## 既存化学物質審査シート(人健康影響・生態影響)

(平成22年12月17日開催)

官報公示 整理番号	CAS No.	物質名称	審議項目		頁
			人健康影響	生態影響	
3-36	103-64-0	$\beta$ -プロモスチレン	○	—	1
3-78 3-91	102-47-6	3, 4-ジクロロベンジルクロライド (別名称): 1, 2-ジクロロ-4-(クロロメチル)ベンゼン	○	—	3
4-644	208-96-8	アセナフチレン	○	—	5
5-2275	91-96-3	アゾイックCC-5	○	—	7
5-2111	3618-60-8	モルダントブラック-7	○	—	9
7-1340	32492-61-8	ビスフェノールA-EO付加物	○	—	11
7-1340	37353-75-6	ビスフェノールA-PO付加物	○	—	13
2-224	75-91-2	tert-ブチル=ヒドロペルオキシド	—	○	15
4-19	92-69-3	p-フェニルフェノール	—	○	16
3-78	95-75-0	3, 4-ジクロロトルエン	—	○	18
3-1232	122-57-6 937-53-1 1896-62-4	ベンザルアセトン	—	○	20
3-78	19398-61-9	2, 5-ジクロロトルエン	—	○	21

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-36	CAS No.	103-64-0
名称 構造式等	<p>名称：β-ブロモスチレン 分子式：183.05 分子式：C<sub>8</sub>H<sub>7</sub>Br</p> 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	淡黄色液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 99.6%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2uvrA 5000µg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験 I) -S9mix 群：78.1 µg/plate (TA1535, TA1537：39.1 µg/plate 以上で菌の生育阻害 TA100：最高用量で菌の生育阻害) 313 µg/plate (TA98, WP2uvrA：156 µg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群：78.1 µg/plate (TA1535, TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 313 µg/plate (TA98, TA100, WP2uvrA：156 µg/plate 以上で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群：78.1 µg/plate (TA1535, TA1537：39.1 µg/plate 以上で菌の生育阻害 TA100：最高用量で菌の生育阻害) 313 µg/plate (TA98, WP2uvrA：156 µg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群：78.1 µg/plate (TA1535, TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 313 µg/plate (TA98, TA100, WP2uvrA：156 µg/plate 以上で菌の生育阻害) (確認試験) +S9mix 群：78.1 µg/plate (TA1535：最高用量で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度 99.6%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 1.85mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施。 (本試験) -S9mix 群：0.116mg/mL +S9mix 群：0.0145mg/mL 24 時間処理群：0.116mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 48 時間処理群：0.116mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) (確認試験) +S9mix 群：0.0289mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	99.6%	
	用量	3 用量(30, 125, 500 mg/kg/day)	
	死亡	予備試験：1000♂♀ (5/5) 本試験：600♀ (1/12)	

	NOEL	30 mg/kg/day			
	推定根拠	尿検査（尿量↑：125以上♂500♀、浸透圧↓；125以上♂） 血液生化学的検査（Cho↑・PL↑：125以上♀） 相対重量（肝↑：125以上♂500♀） 絶対重量（肝↑：125以上♀500♂） 組織学的所見（腎－尿細管上皮好酸性小体：125以上♂、甲状腺－濾胞上皮細胞肥大：125以上♀500♂）			
	他の毒性	一般状態（流涎：500♂♀） 尿検査（小円形上皮細胞：500♂♀） 血液生化学的検査（Pi↑・Alb↑：500♂、TP↑：500♂♀、TG↑：500♀） 絶対重量（腎↑：500♂） 相対重量（腎↑：500♂♀） 組織学的所見（肝－小葉中心性肝細胞肥大：500♂♀、腎－尿細管変性：500♂）			
	回復性	TG↑			
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S60	0/30	－	(0.05) μg/L
	底質	S60	0/30	－	(0.003) μg/g-dry
	魚類				
	大気				
	その他				
備考	※1 S61版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）				



推定根拠	組織学的所見（前胃－角化亢進：10以上♂・30以上♀、 前胃－扁平上皮過形成：10以上♀・30以上♂、 前胃－水腫・細胞浸潤：10以上♂♀）
他の毒性	絶対重量（肝↑・腎↑：300以上♂♀） 相対重量（肝↑・腎↑：300以上♂♀） 尿検査（尿量↑・尿円柱↑：300以上♂、尿上皮細胞↑：300以上♀） 組織学的所見（前胃－びらん：300♀、 腎－尿細管変性・好塩基性尿細管上皮・尿細管拡張・間質繊維化：300♂♀、 腎－硝子滴変性：100以上♂、腎－尿細管壊死・間質細胞浸潤：300♀）
回復性	肝↑、腎↑、前胃－扁平上皮過形成、腎－好塩基性尿細管上皮、腎－尿細管拡張、腎－間質細胞浸潤
備考	変化物あり 3, 4－ジクロロベンジルアルコール（CAS1805-32-9） 3, 4－ジクロロ安息香酸（3-1410）



NOEL	4 mg/kg/day
推定根拠	尿検査（小円形上皮細胞陽性：20 以上♂100 ♀） 相対重量（肝↑：20 以上♂♀） 組織学的所見（肝－小葉中心性肝細胞肥大、副腎－球状帯び慢性肥大：20 以上♀100♂）
他の毒性	体重↓・摂餌量↓・摂水量↑：100♂♀ 一般状態（流涎・粗毛・削瘦・立ち上がり回数↓：100♀） FOB（握力（前肢）↓・聴覚↓：100♂、痛覚↓：100♀、自発運動低下：100 以上♂♀） 尿検査（尿量↑・浸透圧↓：100♂♀） 血液学的検査（Ret↓・Plt↑：100♂♀、Hgb↑・MCHC↑・APTT↑：100♀） 血液生化学的検査（Cho↑・PL↑：1000♂♀、TP↑・Alb↑：100♂） 絶対重量（心↓：100♂♀、胸腺↓：100♀） 相対重量（腎↑：100♂♀、心↓・副腎↑：100♂、胸腺↓：100♀） 組織学的所見（肝－クッパー細胞色素沈着・肝細胞単細胞壊死、大腿骨・胸骨－骨髓細胞密度の低下、腎－好塩基性尿細管・尿細管の単細胞壊死、胃－腺胃びらん、胸腺－萎縮、膀胱－被蓋細胞肥大：100♂♀、腸間膜リンパ節－萎縮、脾－リンパ濾胞萎縮、子宮－萎縮：100♀） 回復期：握力（後肢）↓
回復性	握力↓、尿量↑、浸透圧↓、小円形上皮細胞陽性、肝－髓外造血、副腎－球状帯び慢性肥大、腎－好塩基性尿細管

環境調査	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
※1	水質	S59	4/138	0.08～1.3 μg/L	(0.002～1) μg/L
		S58	0/33	—	(0.06～0.4) μg/L
	底質	S59	63/138	0.0007～0.671 μg/g-dry	(0.00006～0.088) μg/g-dry
		S58	13/33	0.008～0.053 μg/g-dry	(0.008～0.041) μg/g-dry
	魚類	S59	14/138	0.0008～0.024 μg/g-wet	(0.0002～0.05) μg/g-wet
	大気				
その他					

備考 ※1 S59、S60 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）





染色体異常	陽性 D20 値=0.36mg/mL (48 時間処理群：数的異常) -S9mix 群及び 48 時間処理群において数的異常の誘発。 純度 97.5%. 溶媒 (注射用水-懸濁). CHL/IU. 3.85mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群：3.85mg/mL +S9mix 群：0.241mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群：3.85mg/mL 48 時間処理群：3.85mg/mL	
28 日間 反復投与	動物種・系統	ラット CrI:CD(SD)
	投与方法	強制経口投与 溶媒：0.5%メチルセルロース水溶液
	純度	96.9%
	用量	3 投与群 (8, 40, 200, 1000 mg/kg )
	死亡	なし
	NOEL	8mg/kg/day
	推定根拠	体重↓・摂餌量↓：40 以上♂♀、摂水量↓：40 以上♂1000♀ 相対重量 (肝↑40 以上♂200 以上♀) 組織学的所見 (肝-小葉中心性肝細胞肥大：40 以上♂♀)
他の毒性	血液生化学的検査 (Cho↑・PL↑：1000♂♀) 尿検査 (尿量↓：1000♂) 絶対重量 (胸腺↓：200 以上♂)	
	回復性	体重↓
他の試験	実施せず	
備考		

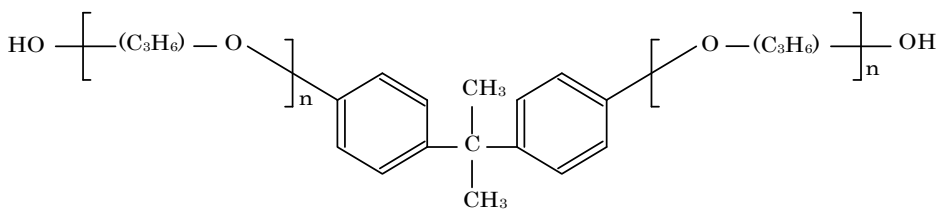


染色体異常	陽性 D20=0.18mg/mL (−S9mix 処理群：構造異常) +S9mix 群において構造異常の誘発. 純度 92.7%. 溶媒 (注射用水−懸濁). CHL/IU. 4.2mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. −S9mix 群：0.250mg/mL (細胞毒性のため 0.125mg/mL まで観察) +S9mix 群：0.0625mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) ※被験物質の純度は 92.7%であるが、純度換算は実施していない。	
28 日間 反復投与	動物種・系統	ラット Crl:CD(SD)
	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水
	純度	92.7% ※被験物質の純度は 92.7%であるが、純度換算は実施していない。
	用量	3 投与群 (40, 200, 1000 mg/kg )
	死亡	予備試験 (1000♂：1/5)
	NOEL	40 mg/kg/day 未満
	推定根拠	尿検査 (尿量↓・尿浸透圧↑：40 以上♀1000♂) 組織学的所見 (盲腸−粘膜の反応性過形成：40 以上♂♀)
	他の毒性	体重↓：1000♂、摂水量↑：200 以上♂1000♀ 一般状態 (軟便：200 以上♂♀) 自発運動↑：1000♀ 血液生化学的検査 (K↑：200 以上♀) 尿検査 (ビリルビン陽性：1000♀) 絶対重量 (腎↑：1000♂) 相対重量 (腎↑：1000♂♀) 組織学的所見 (結腸−粘膜の過形成：200 以上♂♀、腎−尿細管褐色色素沈着： 200 以上♀、大腿部骨格筋−筋繊維の変性/壊死、直腸−粘膜の反 応性過形成：1000♂♀、腎−尿細管の好酸性小滴：1000♂)
回復性	尿浸透圧↑	
備考		



殖発生毒性 併合試験 (Reprotox)	純度	>99%
	用量	4投与群 (30, 120, 500, 1000 mg/kg/day)
	死亡	なし
	NOEL	反復毒性 : 120 mg/kg/day 生殖発生 : 1000 mg/kg/day
	推定根拠	反復毒性 : 血液生化学的検査 (Cho ↑ : 500 以上♂・1000♀) 絶対重量 (肝 ↑ : 500 以上♀) 相対重量 (肝 ↑ : 500 以上♂♀, 腎 ↑ : 500 以上♂) 組織学的所見 (肝—小葉中心性肝細胞肥大 : 500 以上♂♀, 腎—近位尿細管再生性過形成 : 500 以上♂) 生殖発生 : 全群で特に毒性学的影響は認められていない
他の毒性	反復毒性 : 体重↓ (1000♂) 血液学的検査 (RBC ↓ ・ Hgb ↓ ・ Hct ↓ ・ Ret ↑ : 1000♀) 血液生化学的検査 (ALT ↑ ・ Ca ↑ : 1000♀) 組織学的所見 (肝—巣状壊死 : 1000♂♀) 生殖発生 : —	
回復性	腎—近位尿細管再生性過形成	
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査 (平成19年実績)	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	7-1340	CAS No.	37353-75-6
名称 構造式等	<p>名 称：ビスフェノール A-PO 付加物            分子量：502            分子式：<math>(C_3H_6O)_n(C_3H_6O)_n C_{15}H_{16}O_2</math></p> 		
用途	中間物、塗料等溶媒、接着剤等溶媒、樹脂添加剤、潤滑・研削油 <sup>※1</sup>		
製造及び 輸入数量	7-1340 として 1,000～10,000 t 未満 <sup>※1</sup>		
外観	無色透明液体		
分解性	-		
蓄積性	-		
Ames	<p>陰性            純度 &gt; 99%. 溶媒 (DMSO-溶解).            TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2uvrA.            5000 <math>\mu</math>g/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に以下の濃度まで実施.            (本試験 I)            -S9mix 群：5000 <math>\mu</math>g/plate (2500 <math>\mu</math>g/plate 以上で被験物質の析出)            +S9mix 群：5000 <math>\mu</math>g/plate (2500 <math>\mu</math>g/plate 以上で被験物質の析出)            (本試験 II)            -S9mix 群：5000 <math>\mu</math>g/plate (2500 <math>\mu</math>g/plate 以上で被験物質の析出)            +S9mix 群：5000 <math>\mu</math>g/plate (2500 <math>\mu</math>g/plate 以上で被験物質の析出)</p>		
染色体 異常	<p>陰性            純度 <math>\geq</math> 99%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU.            3.0mg/mL (調製可能な最高用量) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施.            -S9mix 群：0.1mg/mL (細胞毒性のため 0.05mg/mL まで観察)            +S9mix 群：0.2mg/mL (細胞毒性のため 0.1mg/mL まで観察)            24 時間処理群：0.1mg/mL (細胞毒性のため 0.05mg/mL まで観察)</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (Reprotox)	動物種・系統	ラット Crj：CD(SD)	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：オリーブ油	
	純度	$\geq$ 99%	
	用量	3 投与群 (30, 120, 500 mg/kg/day)	
	死亡	予備試験 (1000：1/4♂2/4♀) 本試験 (500：1/12♀)	
NOEL	反復投与毒性：30 mg/kg/day 生殖発生発生：120 mg/kg/day		

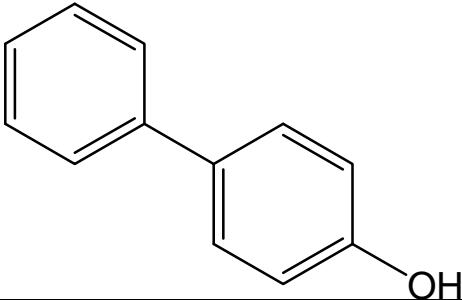
推定根拠	反復投与毒性： 一般状態（流涎：120 以上♀） 血液生化学的検査（TP↓：120 以上♂） 組織学的所見（小腸－腸絨毛乳び管拡張：120 以上♂♀） 生殖発生毒性： 性周期↑（500♀） 新生児体重↓（500）
他の毒性	反復投与毒性： 体重↓（500♂） 一般状態（眼瞼下垂・自発運動低下：500♂） 血液生化学的検査（Alb↓：500♂、Cho↑：500♂♀） 絶対重量（肝↑：500♂） 相対重量（肝↑：500♂♀、腎↑：500♂） 組織学的所見（肝－小葉中心性肝細胞肥大：500♂♀） 生殖発生毒性：－
回復性	小腸－腸絨毛乳び管拡張
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績）

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-224	CAS No.	75-91-2
名称 構造式等	名 称：tert-ブチル=ヒドロペルオキシド $  \begin{array}{c}  \text{CH}_3 \\    \\  \text{HOO}-\text{C}-\text{CH}_3 \\    \\  \text{CH}_3  \end{array}  $		
用途	中間物、繊維剤（非成形）※ <sup>1</sup>		
製造及び 輸入数量	2-224 として 100~1,000 t 未満※ <sup>1</sup>		
外観	透明液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG（2006） 培養方式：振とう培養 純度：66.0%（不純物 水） 試験濃度：設定濃度 0.085、0.19、0.41、0.91、2.0、4.4 mg/L 実測濃度 ー、ー、0.14、0.66、1.9、4.0 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 72hEC50（実測値に基づく）=1.1 mg/L 72hNOEC（実測値に基づく）=0.14 mg/L ①毒性値の算出に当たって純度換算を行っている。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式（密閉系） 純度：66.0%（不純物 水） 試験濃度：設定濃度 10、15、23、34、51 mg/L 実測濃度 9.7、15、21、33、51 mg/L（算術平均値） 助剤：なし 48hEC50（設定値に基づく）=14 mg/L ①毒性値の算出に当たって純度換算を行っている。		
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式（密閉系）、48 時間後に換水 純度：66.0%（不純物 水） 試験濃度：設定濃度 25、35、50、70、100 mg/L 実測濃度 24、35、53、72、100 mg/L（算術平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=94 mg/L ①毒性値の算出に当たって純度換算を行っている。		
備考	※ <sup>1</sup> 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績）		

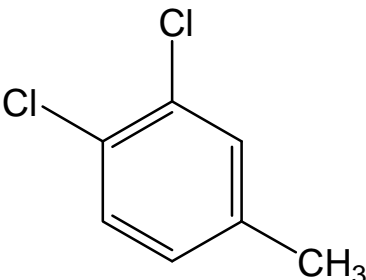


既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-19	CAS No.	92-69-3
名称 構造式等	名称：p-フェニルフェノール 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	白色フレーク		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 0.014、0.044、0.14、0.44、1.4、2.5、4.4、7.9 mg/L 実測濃度 0.013、0.041、0.13、0.39、1.3、2.3、4.2、7.5 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 72hEC50 (実測値に基づく) = 2.4 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) = 0.013 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 0.86、1.3、1.9、2.7、4.0、5.9、8.6 mg/L 実測濃度 0.81、1.3、1.8、2.6、3.9、5.6、8.3 mg/L (算術平均値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) = 3.9 mg/L		
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.4、1.8、2.4、3.2、4.3、5.7 mg/L 実測濃度 1.0、1.5、1.9、2.5、3.3、4.4、6.1 mg/L (算術平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) = 3.4 mg/L  以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 2.5 mg/L 群：遊泳異常 (24h 2/10、48h 3/10) 3.3 mg/L 群：遊泳異常 (24h 10/10、48h 9/10、72h 6/6、96h 5/5) 遊泳不能 (48h 1/10)		

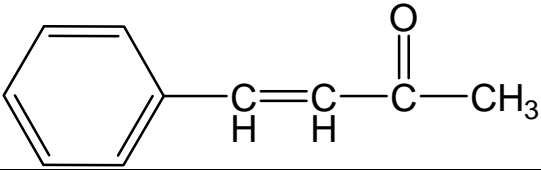
環境調査	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
※1	水質	S53	0/30	—	(0.02~50) $\mu$ g/L
		H11	2/27	0.007~0.009 $\mu$ g/L	(0.006) $\mu$ g/L
	底質	S53	0/30	—	(0.06~2.5) $\mu$ g/g-dry
		H11	1/36	0.002 $\mu$ g/g-dry	(0.0016) $\mu$ g/g-dry
	魚類	H11	1/33	0.010 $\mu$ g/g-wet	(0.0020) $\mu$ g/g-wet
大気					
その他					
備考	※1 S54、H12版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

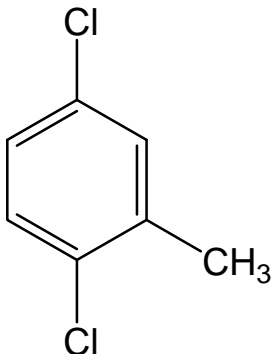
官報公示 整理番号	3-78	CAS No.	95-75-0
名称 構造式等	名称：3, 4-ジクロロトルエン 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	無色透明液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.34、0.74、1.6、2.4、3.4、5.0 mg/L 実測濃度 0.092、0.23、0.48、0.73、1.0、1.7 mg/L（幾何平均値、非接種区） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）=1.4 mg/L 48hNOEC（実測値に基づく）=0.23 mg/L  （参考） 72hEC50（実測値に基づく）=1.6 mg/L 72hNOEC（実測値に基づく）=0.22 mg/L  ①藻体への吸着による被験物質濃度の低下が考えられたため、毒性値の算出に当たっては藻体非接種区の測定値を用いている。 ②密閉系で試験を実施したこともあり、0-72時間では日毎の変動係数が成立条件を満たさなかったため、0-48時間の毒性値を採用している。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式（密閉系） 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.56、1.0、1.3、1.8、2.4、3.2、5.6 mg/L 実測濃度 0.42、0.76、0.99、1.4、1.8、2.4、4.2 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）=1.4 mg/L		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i>          試験法：化審法 TG          試験方式：半止水式（密閉系）、24 時間毎に換水          純度：99.9%          試験濃度：設定濃度 0.67、1.4、3.1、4.3、5.6、7.4、10 mg/L          実測濃度 0.62、1.1、2.4、3.3、4.2、6.0、8.1 mg/L（0,72 hr の算術平均値）          助剤：なし          96hLC50（実測値に基づく）=4.3 mg/L</p> <p>以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。          0.62 mg/L 群：遊泳異常（48h 1/10、72h 1/10、96h 5/10）          1.1 mg/L 群：遊泳異常（24h 2/10、48h 10/10、72h 10/10、96h 10/10）          2.4 mg/L 群：遊泳異常（24h 10/10、48h 10/10、72h 9/10、96h 9/10）              遊泳不能（72h 1/10、96h 1/10）              外見異常（72h 10/10、96h 10/10）          3.3 mg/L 群：遊泳異常（24h 9/10、48h 10/10、72h 3/9、96h 1/8）              遊泳不能（24h 1/10、72h 6/9、96h 7/8）              外見異常（24h 10/10、48h 10/10、72h 9/9、96h 8/8）          4.2 mg/L 群：遊泳異常（24h 8/10、48h 5/10、72h 4/8、96h 2/7）              遊泳不能（24h 2/10、48h 5/10、72h 4/8、96h 5/7）              外見異常（24h 10/10、48h 10/10、72h 8/8、96h 7/7）</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S56	0/21	—	(10~100) μ g/L
	底質	S56	0/21	—	(0.25) μ g/g-dry
	魚類				
	大気				
	その他				
備考	※1 S57 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-1232	CAS No.	122-57-6, 937-53-1, 1896-62-4
名称 構造式等	名称：ベンザルアセトン 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	薄黄色の結晶塊		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.25、0.43、0.72、1.2、2.1 mg/L 実測濃度 0.20、0.37、0.64、1.1、1.9 mg/L (試験開始時) 助剤：なし 72hEC50 (実測値に基づく) = 0.55 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) = 0.20 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：99.4% 試験濃度：設定濃度 10、13、18、24、32 mg/L 実測濃度 9.7、13、17、23、31 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) = 15 mg/L		
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.4% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10、18 mg/L 実測濃度 0.74、1.4、2.7、4.9、8.9、17 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) = 5.7 mg/L		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-78	CAS No.	19398-61-9
名称 構造式等	名称：2, 5-ジクロロトルエン 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	無色透明液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.6、2.5、4.0、6.3、10 mg/L 実測濃度 0.066、0.43、0.66、1.1、1.9、2.8 mg/L（幾何平均値、非接種区） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）=1.7 mg/L 48hNOEC（実測値に基づく）=0.43 mg/L  （参考） 72hEC50（実測値に基づく）=1.9 mg/L 72hNOEC（実測値に基づく）=0.42 mg/L  ①藻体への吸着による被験物質濃度の低下が考えられたため、毒性値の算出に当たっては藻体非接種区の測定値を用いている。 ②密閉系で試験を実施したこともあり、0-72 時間では日毎の変動係数が成立条件を満たさなかったため、0-48 時間の毒性値を採用している。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式（密閉系）、24 時間後に換水 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 0.56、1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.38、0.68、1.3、2.2、3.5、6.1 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）=1.1 mg/L		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i>          試験法：化審法 TG          試験方式：半止水式（密閉系）、24 時間毎に換水          純度：99.6%          試験濃度：設定濃度 1.8、2.4、3.5、4.2、5.6、7.5、10 mg/L                            実測濃度 1.6、1.9、2.7、3.1、4.0、6.3、8.7 mg/L（0,72 hr の算術平均値）          助剤：なし          96hLC50（実測値に基づく）=4.0 mg/L</p> <p>以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。</p> <p>1.6 mg/L 群：遊泳異常（24h 2/10、48h 5/10、72h 6/10、96h 6/10）          1.9 mg/L 群：遊泳異常（24h 6/10、48h 6/10、72h 6/10、96h 6/10）          2.7 mg/L 群：遊泳異常（24h 6/10、48h 7/10、72h 6/10、96h 7/10）          3.1 mg/L 群：遊泳異常（24h 10/10、48h 10/10、72h 10/10、96h 10/10）</p>
備考	